

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_名古屋2010年版

■使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya2010\_V1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名駅一丁目計画(仮称)	階数	地下3F、地上40F、塔屋1F
建設地	愛知県名古屋市中村区名駅一丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域、駐車場整備地	平均居住人員	9,000 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、 <small>(※他用途については、全体の2割未満の為、事務所用途に含めている)</small>	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2015年11月 予定	評価の実施日	2013年6月5日
敷地面積	12,178 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	9,737 m <sup>2</sup>	確認日	2013年6月6日
延床面積	177,866 m <sup>2</sup>	確認者	



ください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 71%  
③上記+②以外の 71%  
④上記+ 71%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 4.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.9

**LR のスコア = 4.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際都市名古屋に相応しい高次商業・業務拠点の形成</li> <li>都市の玄関口に相応しい品格ある景観形成</li> <li>交通の結節点に相応しいバスターミナル・乗換施設の改善</li> <li>街区全体が一体的に機能する施設配置と歩行者ネットワークの創出</li> <li>地球環境に配慮した様々な工夫</li> <li>災害・非常時に対応しうる整備</li> </ul>	<b>その他</b> <p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>	
<b>Q1 室内環境</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>室内外の遮音性能に配慮した計画</li> <li>low-eガラスを採用し、外部の熱負荷対応に配慮した外装計画</li> <li>自動制御ブラインドによる昼光制御</li> <li>各種給排気の離隔距離確保等、ショートサーキット防止に配慮した換気計画</li> </ul>	<b>Q2 サービス性能</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>人にやさしい街づくり条例、移動等円滑化誘導基準を満たし、バリアフリーに配慮した施設計画</li> <li>耐久性、信頼性に配慮した材料、システム選定</li> <li>ゆとりある階高、床荷重設定</li> </ul>	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>名駅通り側壁面をセットバックさせる事で、前面に広がる歩行者空間を形成</li> <li>名駅通りに沿って常緑樹による並木を配し、ビル風を和らげつつ、都市景観に潤いと品格を創出</li> <li>アトリウムやカンファレンスホールを有した施設構成</li> </ul>	<b>LR3 敷地外環境</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>PALやERRIに配慮した施設計画</li> <li>大規模駐車場、駐輪場の設置</li> <li>風洞実験による風環境のシミュレーション</li> <li>光害対策ガイドラインに基づく照明計画</li> </ul>	
<b>LR1 エネルギー</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>PALやERRIに配慮した施設計画</li> <li>自然換気や太陽光発電による自然エネルギーの利用</li> <li>BEMSの構築</li> </ul>	<b>LR2 資源・マテリアル</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>雨水や雑排水の再利用システムの導入</li> <li>各種リサイクル材(エコマーク、グリーン購入)の使用</li> <li>不活性ガス消化剤の使用</li> </ul>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される